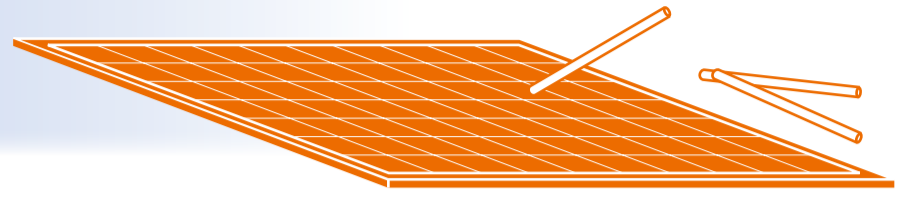


近代の文房具



時代：近代

調査名：平野氏陣屋跡 第3次調査

発見年：1992年

大きさ：石板 縦 16.0 cm、横 24.5 cm

4月には新しい年度になり、各地の学校では新入生を迎えます。新入生の真新しい鞆の中には、これから勉強に臨むための鉛筆やノートなどの文房具も入っていることでしょう。

さて、江戸時代には、藩士は藩学校、一般庶民は私塾や寺子屋で学問を学びました。ここ田原本での藩士教育の内容は不明ですが、1868(明治元)年には「明倫館」が役場の南側に設立されました。一方、明治期の公教育は新しい学制のもと、1872(明治5)年には浄照寺に「養正館」が創立され、その後1885(明治18)年には現役場のところに「田原本尋常小学校」が造られました。

今回紹介する^{せきばん}石板類は、現在の田原本町役場の新築工事に伴い、^{ひらのしじんやあと}平野氏陣屋跡第3次調査を実施した時に出土したものです。江戸時代には役場からその南側にかけて、陣屋や家臣団の屋敷があり、その跡地に尋常小学校が築かれたのです。

石板は、厚さ4mmの黒色の石を使用しており、碁盤のように枡目が刻まれています。木枠に^は嵌められていたようですが、その木枠は現在残っていません。一方、^{せきひつ}石筆は棒状に加工した^{ろうせき}蠟石状の柔らかい石材が使用され、すり減り短くなっています。

多量の文房具で溢れスマートフォンで検索できる現在と比べ、紙が貴重でノートがない時代、新しい学制のもと学んだ子どもたちの学問に対する情熱が伝わってくるようです。

